

災害廃棄物の現状

3月11日発生した東日本大震災から9カ月近くなつた被災地では、今なお、何年、あるいは数十年分のガレキの山が、復旧・復興の足かせになっています。

秋田県・仙北市の対応状況

秋田県では、岩手県から依頼のあったガレキの広域処理の受入れについて、県内市町村へ意向調査を行いました。現時点で受入れを表明した市町村はありません。

仙北市では、「受入れを前提とした検討は行っていないが、今後の状況次第では検討する可能性がある」と回答しています。

放射能影響など現地の情報が不足していることから、まずは直接現地の現状を確認する必要があると判断し、11月15日、16日に岩手県北部（久慈市・洋野町・野田村・普代村）と宮古市へ行き、現状を調査してきましたので、その概要をお知らせします。

現地の状況

岩手県北部のガレキは約27万トで各地域ごとに保管されています。写真①は野田村十府ヶ浦の約3万1千トが保管されているガレキ置場の様子。未だに分別や処理が決まっていない状況です。

岩手県北部で発生したガレキは、17カ所の仮置き場に搬入され、うち分別が始まっている仮置場は8カ所、分別された後の二次置場は1カ所、他8カ所は手つかずのままの状況でした。岩手県北部でもっとも、被害が大きかった野田村では、岩手県に処理を委託しており、写真②のように重機と人の手による分別作業を行っています。



ここでは、可燃・鉄くず類・コンクリート類・木材・廃プラスチック・ガラス陶磁器類など、約6品目ほどに分別されていました。

分別されたガレキは、種別ごとにそれぞれ二次置場へと移動し、処理先が決まるまで保管されるそうです。写真③は金属くずが保管されている様子。

コンクリート等は、岩手県内でリサイクルすることに決まっているそうです。また、久慈市の一部では、可燃の一部はすでに焼却が始まっていますが、1日当たり5ト程度で、岩手県北部の焼却場だけでは到底追いつかないのが現状だそうです。普代村では、岩手県内の業者で木くずをチップ化し、再利用に向けて処理していました。

洋野町では、ようやく分別が開始された状況で、ガレキは混在している状況でした。

写真④は宮古市から東京都へ搬出される様子。ここでは、東京都独自の基準を設けて、基準をクリアしたガレキのみを搬出していました。特に、放射線量の測定に関しては、第三者機関が1時間ごとに測定し、搬出されるガレキを随時、遮蔽した状態で、ガレキそのものの放射線量を測定していました。現場の担当者からは、これまでに汚染されたガレキは、まだ無いとの説明でした。

現状を調査したところ、9カ月近くたった今でも、ガレキの処理がなかなか進んでいないのが現状でした。

まちづくり日記

No.35

「雪のニオイ」

仙北市長 門脇 光浩

小さい頃、雪が降ると楽しい気持ちになったことを思い出します。「いつか降ったかな」。記憶をたどっても確かな理由が思いつきません。たぶん、冬休み、雪遊びにスキー、クリスマス、お正月、お年玉…。冬の季節のあれこれにワクワクしたんでしょう。

自分は小さい頃、目覚めてすぐに（窓を開けたり外に出たりしなくても、フトンの中でポーっとしているだけで、雪が降ったことを直感できました。初雪は百発百中、新雪が多く降った朝なども、体調が悪くない限りほぼの中だったと思います。どうやって気づいていたか、それは室温だったり空気の張り具合だったり、部屋に差し込む光の加減だったり、様々な要因もあったんでしょうが、一番はやっぱり「雪のニオイ」です。香りほどはつきりしない、悲しくても泣くことが許されなくて、こらえている間に感じる鼻の奥のジンジンした感覚、あんな種類のニオイです。

今から40年も前になりますが、小学校の冬の集団登校で、「雪のニオイ」の話をしたら、「雪にはニオイはない」と言われ、それ以来この話は封印していました。もしかしたら、一時期の特殊能力だったかな。だって今では寝たままでも、雪を感じることはできないのですから。

「いつ頃から、雪のニオイをかき分ける能力が無くなってしまったんだろつ」。この前、初雪が落ちてきた夜に考えてみました。結論は「冬が来ることに喜びを感じなくなった頃から、この特殊能力は無くなっていく」です。

もったいない能力を無くしてしまいました。「今あったら、除雪パトロールがいらなくなるのになあ。経費も削減できたなあ」と残念に思っています。

コミュニティ助成（宝くじ助成）により 防災用資機材を整備

このたび、「地域防災組織育成助成事業・自主防災防災組織育成」を活用し、柏林自主防災会（小松嘉会長）へ防災用資機材を整備しました。

柏林自主防災会では、配備されたAEDの使用方法を学ぶため、普通救命講習会を開催し、イザ！というときに備えました。



【柏林自主防災会へ配備された資機材】

電池メガホン1台、街頭用消火器4台、ヘルメット19個、AED1台、テント2張、救急箱1箱、簡易担架1台、発電機1台、強力ライト19個

コミュニティ助成とは



（財）自治総合センターが宝くじの社会貢献広報事業の一環として地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与するため実施している助成事業です。



担当：仙北市環境保全センター ☎ 54-3305

岩手県北部 空間放射線量：0.06～0.08 μSv/h
仙北市 空間放射線量：0.05 μSv/h